JCSS2009
09/11/Fri

隠喩理解における主題と喩辞の意味

有意味性判断を用いた検討

平知宏・楠見孝（京都大学大学院教育学研究科）

本発表の概要

- 隠喩の理解において，隠喩を構成する語の意味が，どのように理解されているかを検討した.
  - 「人生はギャンブルだ」といった隠喩の理解時に，「人生」や「ギャンブル」といった語はどのような意味で理解されているのか？
  - 特に隠喩と関連する意味（例：どうなるかわからない）の理解について焦点を当てた.

- プライミング手法と有意味性判断課題を組み合わせた心理実験を用いて検討した.

隠喩の理解の過程

- 隠喩：「主題」と「喩辞」で構成される比喩的表現
  - 隠喩：「人生はギャンブルだ」
  - 主題：たとえられる語「人生」
  - 喩辞：たとえている語「ギャンブル」

- 比喩的表現は，主題と喩辞の類似性比較（Gentner, 1983; Tversky, 1977）など，様々な過程を通じて理解される.
- 隠喩理解の過程では，特に抽象化の過程が重要である（Glucksberg, McGlone, & Manfredi, 1997）.

隠喩理解における抽象化

- 喩辞が代表例となるような意味でとらえる過程
  - 喩辞が隠喩理解において適切な意味となるような調整が働き，喩辞は隠喩と関連する意味で理解されやすくなる.

人生は **ギャンブルだ**

抽象化の過程の発生には，
様々な要因が絡む.

○「どうなるかわからないもの」
○「リスクを負うもの」
×「やみつきになるもの」
×「オトナな雰囲気なもの」

抽象化を生じさせる要因

- 喩辞の慣習性（Bowdle & Gentner, 2005）
  - その意味で，喩辞がどの程度慣習的に使用されるものであるかどうか.
    - 「ギャンブル」は「どうなるかわからないもの」を意味する語として，どの程度慣習的に使用されているか.
  - 慣習性が高いと，抽象化を通じて理解されやすくなる.

- 適切性（Jones & Estes, 2006）
  - 主題の重要な特徴を，喩辞がどの程度適切に表しているか
  - 適切性が高いと，抽象化を通じて理解されやすくなる.

- 従来の研究では，主題と喩辞の組み合わせが抽象化の過程で理解されるようになる要因を検討しているが，個々の語の処理まではあまり検討されていない．
  - 慣習性や適切性を考慮に入れた上で，抽象化の過程が喩辞の意味に及ぼす影響は？
  - また主題はどのように処理されているのか？

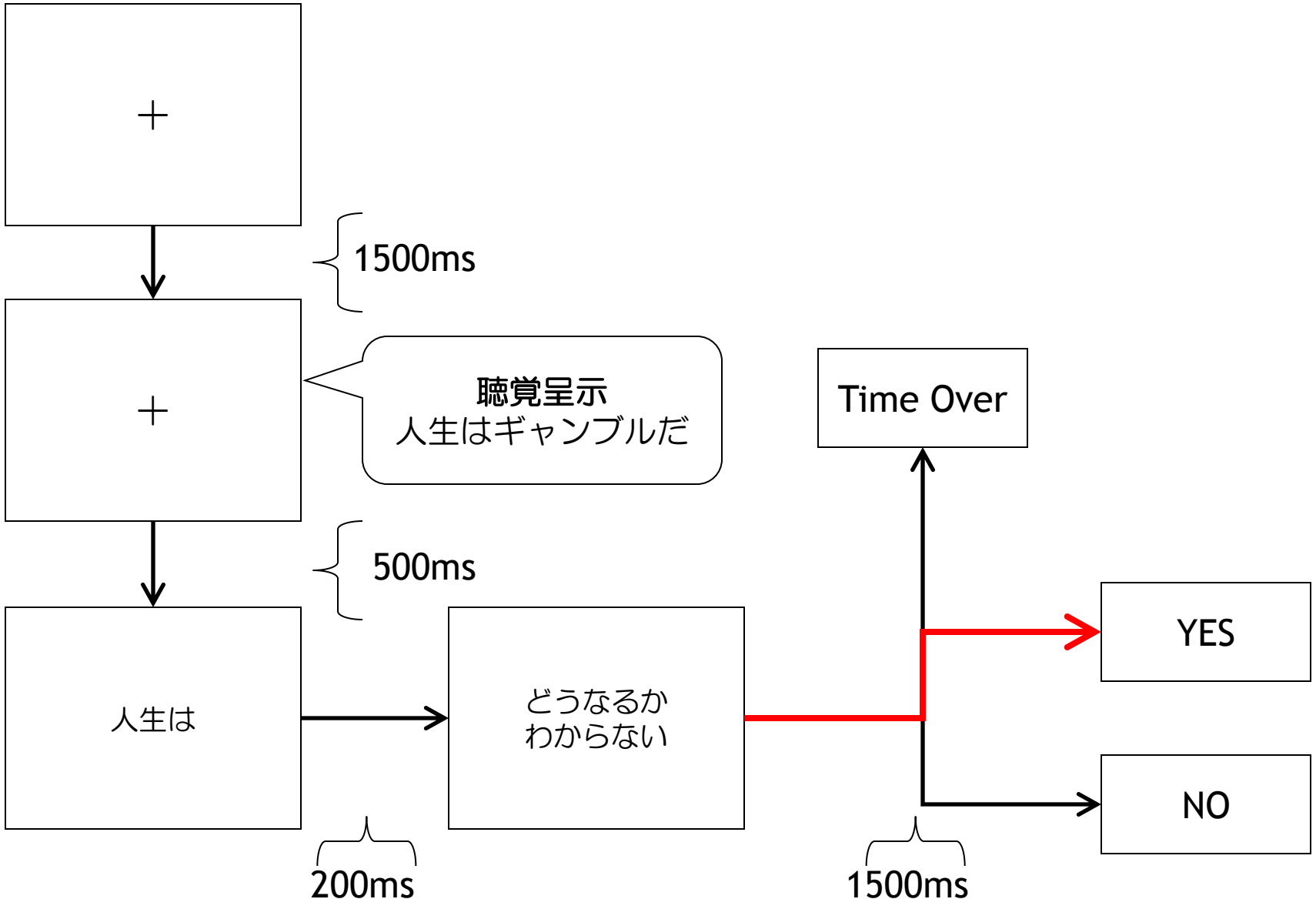
- 本研究では，抽象化の過程に関与すると言われている「慣習性」「適切性」の要因をもとに，「主題」と「喩辞」の処理について検討した．

実験の概要

- 聴覚プライミング
  - 比喩文もしくは統制文を聴覚呈示
    - 「人生はギャンブルだ」（比喩文）
    - 「人生は一生だ」（主題統制文）or「競馬はギャンブルだ」（喩辞統制文）

- 有意味性判断課題（視覚呈示）
  - 順に呈示される「単語」と「意味」の組み合せが，自然に意味が通るかどうかを判定させる課題.
    - 「人生は」＋「どうなるかわからない」

  - **単語に対する意味の重要性・想起のしやすさ等が，反応時間に反映される.**
    - 「単語」に主題もしくは喩辞，「意味」に比喩と関連する意味を用いる.


＋
1500ms
＋
聴覚呈示
人生はギャンブルだ
500ms
人生は
どうなるか
わからない
200ms
Time Over
YES
NO
1500ms

方法

- 参加者
  - 日本語を母語とする大学生・大学院生40名

- 材料
  - 隠喩40文と，隠喩と関連する意味それぞれ40個
    - 隠喩「人生はギャンブルだ」
    - 関連する意味「どうなるかわからない」
  - 慣習性（高/低）・適切性（高/低）により4タイプ×10文

  - 構成される比喩文に対する統制文
    - 「主題」「喩辞」の使われ方が，比喩的でない字義通りの文
    - 「人生は一生だ」「競馬はギャンブルだ」

材料例

	慣習性・高	慣習性・低
適切性・高	人生はギャンブルだ 人生は一生だ 競馬はギャンブルだ （どうなるかわからない）	責任は荷物だ 責任は義務だ カバンは荷物だ （重くのしかかる）
適切性・低	知識はアクセサリーだ 知識は情報だ 指輪はアクセサリーだ （身につけるものだ）	アル中は寄生虫だ アル中は依存症だ ダニは寄生虫だ （人を病気にさせる）

予備調査により，
1．慣習性と適切性を測定し，材料の妥当性を確認した．
2．各々の隠喩において，関連する意味の重要度は主題において中程度に重要であった．

結果の処理

- 分析対象
  - 「意味が通る」と判断されたものの反応時間
    - 本試行の判断文に対する平均有意味判断率は90%
  - 更に対数変換したデータの平均±2SD内のデータのみ使用
    - そのうち3%のデータを除外.
    - 喩辞のデータにおいて欠損値の出た参加者1名のデータを除外

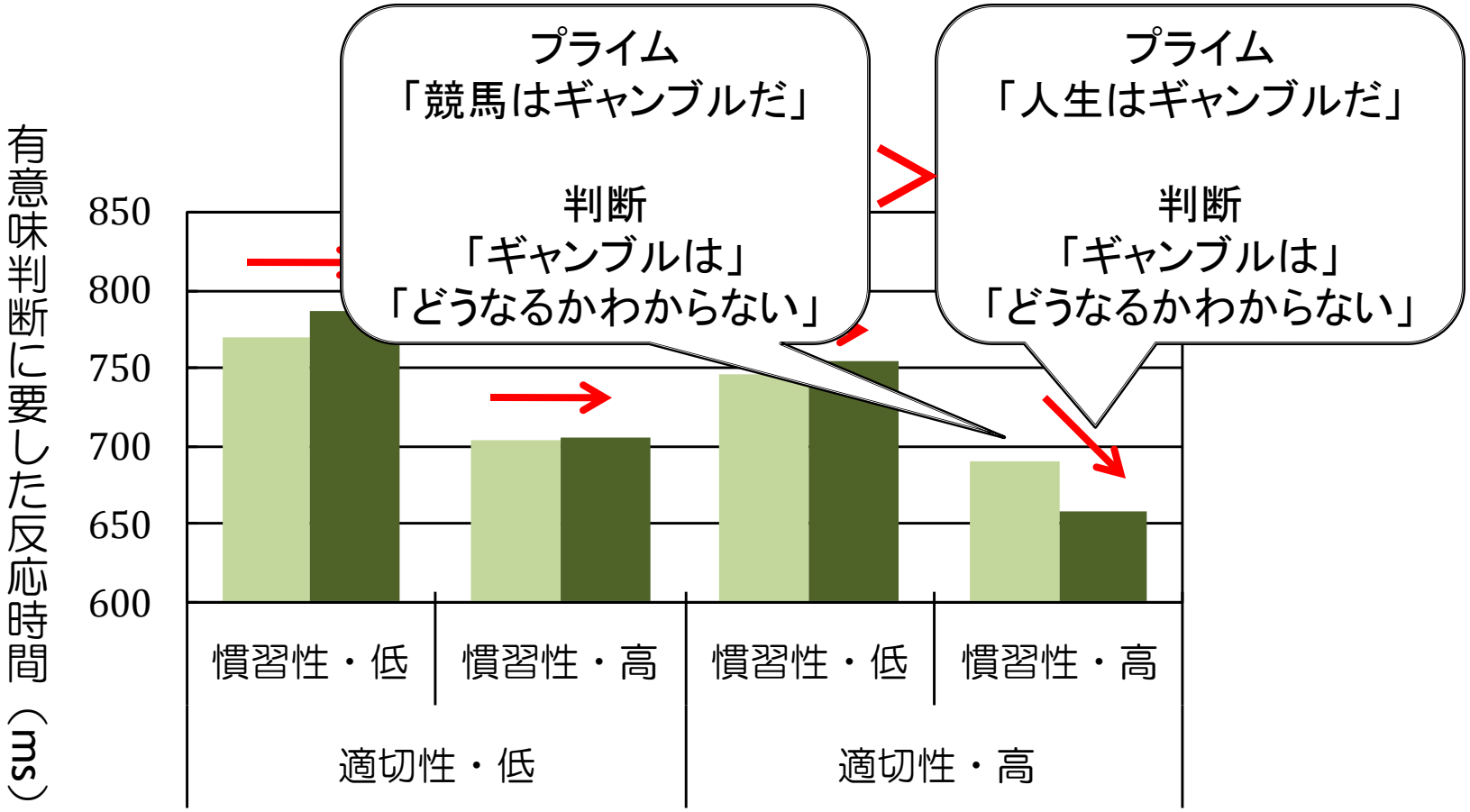
- 分析方法
  - 喩辞と主題の結果を別々に処理
  - 参加者内3要因分散分析
    - 慣習性（高・低）×適切性（高・低）×プライム（比喩・統制）

結果：喩辞の反応時間

- 主効果
  - 慣習性高＜慣習性低（$F(1,38)=63.96$, $p<.001$）
  - 適切性高＜適切性低（$F(1,38)=14.72$, $p<.001$）

- 交互作用と単純主効果
  - 慣習性×適切性×プライム（$F(1,38)=4.14$, $p<.05$ ）
    - プライムの効果：比喩＜統制
      - 慣習性と適切性の高い条件（$F(1,152)=11.65$, $p<.001$）
    - 慣習性の効果：高＜低
      - 適切性の高い比喩（$F(1,152)=10.41$, $p<.001$）
    - 適切性の効果：高＜低
      - 慣習性の高い比喩（$F(1,152)=27.74$, $p<.001$）

結果：喩辞の反応時間



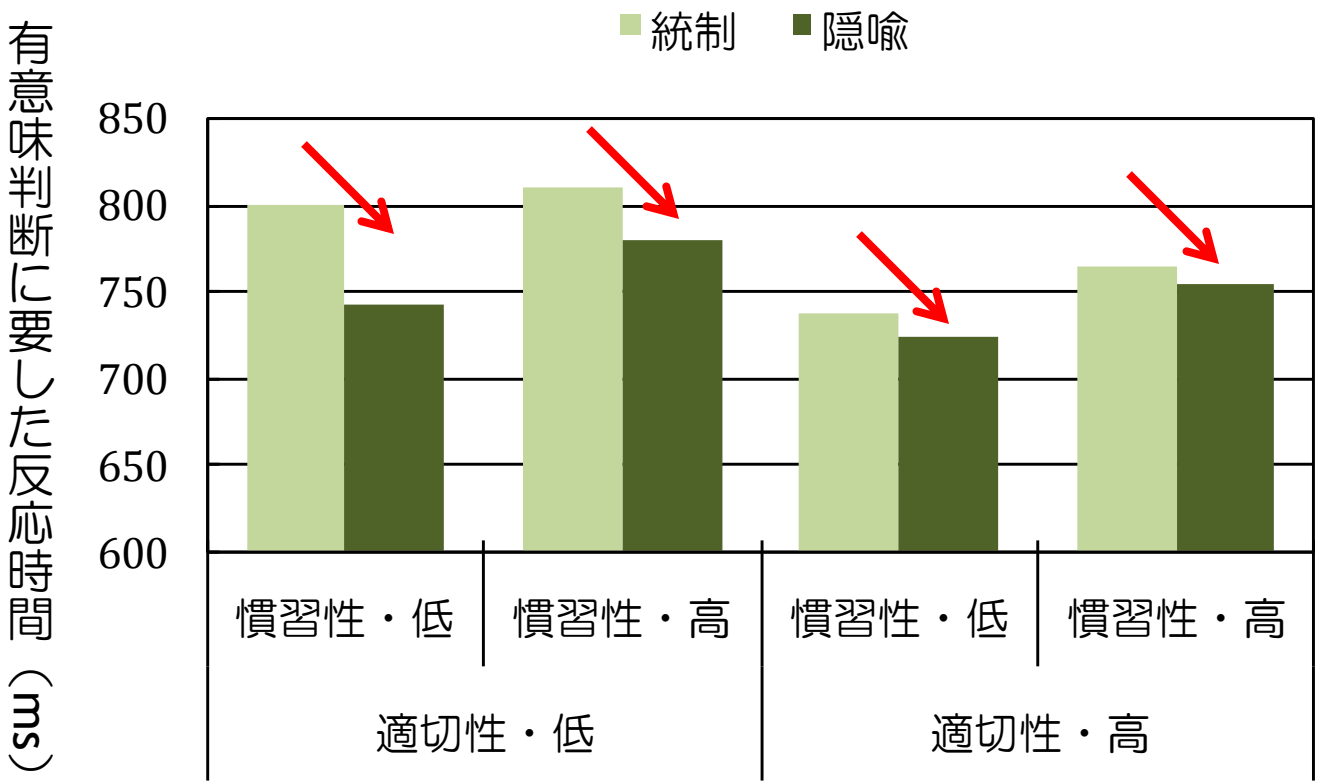
喩辞が隠喩と関連する意味で理解されやすくなるのは，
喩辞の慣習性が高く，適切性が高いという限定的な条件のみ．

結果：主題の反応時間

- 主効果
  - 慣習性高＞慣習性低（$F(1,39)=8.83$, $p<.01$）
  - 適切性高＜適切性低（$F(1,39)=25.47$, $p<.001$）
  - **比喩＜統制（$F(1,39)=12.46$, $p<.005$）**

- 交互作用と単純主効果
  - 慣習性×適切性×プライム（$F(1,39)=0.36$, *n.s.*）

結果：主題の反応時間



隠喩の性質に関わらず，隠喩と関連する意味は主題において理解されやすい状態になっている．

結果のまとめ

- 隠喩の理解において，喩辞が隠喩と関連する意味で理解されやすくなるのは，喩辞の慣習性と適切性の両方が高くなる時のみである．
  - （従来）文全体の処理において慣習性・適切性のいずれかの要因が抽象化の過程を引き起こす（Bowdle & Gentner, 2005; Jones & Estes, 2006）．
  - （今回）語の処理に注目してみると，喩辞に対する抽象化の働きかけは，慣習性と適切性の両者の要因が必須．

- 隠喩の理解において，主題は隠喩と関連する意味で理解されやすくなっている．
  - 隠喩文の性質による差異は見られない．

考察

- 喩辞が隠喩と関連する意味を活性化させている文
  - 「慣習的で適切な表現」
    - 「人生はギャンブルだ」「言葉は武器だ」「山道はヘビだ」
    - いわゆる「理解しやすい」表現
  - 理解のしやすさは，喩辞における意味の処理がスムーズに行われることと関係する？
    - 隠喩の理解は喩辞の処理中心でおこなわれる？（平・楠見, 2008）

考察

- 主題において隠喩と関連する意味が活性化しているのは何故か？
  - 「人生はギャンブルだ」
  - 「アル中は寄生虫だ」
    - 慣習的でもない適切でもない隠喩なのに，「アル中は依存症だ」に対して，なぜ「アル中」が「人を病気にさせる」意味で理解されやすくなるのか？
  - 主題の役割は，想起可能な意味をできる限り許容すること？
    - 事前に呈示される主題の知識は，それが「隠喩と関連する/関連しない」に関わらず，隠喩の理解を阻害しない（McGlone & Manfredi, 2001）.
    - “良くわからない表現だけど，とりあえず「アル中」といえば「人を病気にさせる」ものだよね……”

今後

- 無意味な意味の処理の問題
  - 「人生はどうなるかわからない」vs.「人生は人と歩む」
  - 主題が「想起可能な意味を許容する」役割を持つのであれば，隠喩の理解において，関連する意味だけでなく，隠喩には直接関わらない主題固有の意味も同時に想起させている可能性がある.

- 主題の位置の調整
  - 厳密には，プライムと意味判断課題における主題と喩辞の出現位置は同一ではない.
    - 「人生はギャンブルだ」→「人生はどうなるかわからない」
    - 「人生はギャンブルだ」→「ギャンブルはどうなるかわからない」
  - 「ギャンブルな人生」→「人生はどうなるかわからない」

ご静聴ありがとうございました